

会 議 録

会議の名称	第1回白岡町地域公共交通町民検討会議
開催日	平成24年9月26日(水)
開催時間	午後5時～6時30分
開催場所	白岡町役場庁舎3階庁議室
会長の氏名	佐々木操
出席者(出席委員)の氏名・出席者数	嶋田功次委員、磯部春代委員、堀富夫委員、渡邊剛委員、佐々木操委員、長谷川博委員、村尾齋一郎委員、市村春樹委員、吉川すみ子委員、角田由美子委員、森木清次委員、新井文雄委員、明野真久委員、細井将司委員、尾崎晴男委員
欠席者(欠席委員)の氏名・欠席者数	なし
説明員の職・氏名	企画調整課齋藤課長補佐 企画調整課内田主査
事務局職員の職・氏名	総合政策部田辺部長、企画調整課野口課長、齋藤課長補佐、内田主査
その他会議出席者の職・氏名	小島卓町長、秋葉清一郎副町長
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 挨拶</li> <li>3 会議事項 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 会長及び副会長の選出について</li> <li>(2) 諮問書について</li> <li>(3) 地域公共交通に係る基礎調査の中間結果について</li> <li>(4) 各委員からの意見等について</li> <li>(5) 今後の検討スケジュールについて</li> <li>(6) その他</li> </ol> </li> <li>4 閉会</li> </ol>
配布資料	<p>会議次第</p> <p>資料1 白岡町地域公共交通町民検討会議委員名簿</p> <p>資料2 会長及び副会長の選出について</p>

資料 3	諮問書（写し）
資料 4	白岡町地域公共交通基礎調査の中間結果概要について
資料 5	白岡町地域公共交通町民検討会議の概要について
資料 6	白岡町の現状
資料 7	白岡町地域公共交通町民検討会議の検討スケジュール （案）
資料 8	白岡町地域公共交通町民検討会議設置要綱
資料 9	平成 1 8 年度廃止町内循環バスの概要
資料 1 0	白岡町地域公共交通町民検討会議会議運営要領
資料 1 1	費用弁償相当額の口座振込について（依頼）

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	◎ 委嘱状の交付 小島町長から委員に委嘱状の交付が行われた。
事務局	1 開会 田辺総合政策部長の司会進行により会議が開会した。
小島町長	2 挨拶 小島町長から挨拶が行われた。
	◎ 事務局職員の紹介
	◎ 白岡町地域公共交通町民検討会議会議運営要領の説明及び確認
	◎ 傍聴人の入室
	3 会議事項
	(1) 会長及び副会長の選出について 委員の互選により、会長に佐々木委員、副会長に堀委員が選任され、その後会長、副会長の挨拶が行われた。
事務局	(2) 諮問書について 事務局から資料の確認、資料3についての説明が行われた。
佐々木会長	ただ今の事務局の説明について、何か意見等はあるか。
A委員	諮問書に交通弱者等とあるが、障がい者の方は委員としなかったのか。
事務局	高齢者等の中に、障がい者も含めて考えている。障がい者の方は委員に含まれていないが、民生委員、老人クラブの連合会の方が入っているため、福祉の面で広く意見を伺いたい。

事務局	<p>(3) 地域公共交通に係る基礎調査の中間結果について</p> <p>事務局から資料 9、4、6 についての説明が行われた。</p>
佐々木会長	<p>ただ今の事務局の説明について、何か意見等はあるか。</p>
B 委員	<p>町の財政状況を考えると無駄なことはできないと思う。</p> <p>循環バスは、どこの市町村でも空気を運ぶような状況となっている。循環バスはどのような調査を行ったうえで運行実施に至ったのか。今回は P D C A サイクルの C h e c k の部分から廃止という形になったが、導入当時は対象を細かく区分したような調査が行われたのか伺いたい。</p> <p>前回の反省点から出発するのも大切であるため、今回はどのような点が問題となって、利用者が少なかったり、費用対効果が上がらなかったりしたのか、伺いたい。</p>
事務局	<p>循環バスはご存じのとおり、費用対効果の面から廃止に至った。しかし、循環バスは営利を目的としたものではなく、町民の足を確保しなければならぬ、ということで、町で運営していた。黒字は想定していないが効率的な運行は必要であった。しかし、町が運営していたため、全ての区域を回るものとなってしまい、利用者には使いづらい面もあった。経費の面から、本数が少なくなり、そのために利便性が低下して利用者も減少していくという悪循環に陥り、赤字が大きく膨らみ、財政状況から廃止に至った。今回は、前回のようない失敗がないように、投入した税金が無駄だと言われない方法を検討したい。</p>
B 委員	<p>ではニーズの調査などは行わなかったのか。</p>
事務局	<p>正式な調査は今手元にはないのだが、町民の足の確保ということで、駅や公的施設をくまなく回るようなルートを設定した。この路線であれば何人乗るかというような厳密な調査は行わなかった。</p>

B 委員 事務局	<p>交通弱者とか、高齢者とか、要介護者とかの層ごとのニーズを正確に捉えていたのかを伺いたい。</p> <p>平成 18 年度に廃止した循環バスの運行の経緯については、まずは昭和 50 年代に老人福祉センターが開設し、その利用者のためのバスとして運行が開始された。その後、コミュニティセンターや公民館、温水プールなどの施設が建設され、それらの施設や駅へのアクセス手段としてバスを利用したいといった要望が町民の方々から挙がった。平成 11 年に運行を開始したので、平成 8 年頃から老人福祉センター用のバスをベースにした町内循環バスの検討が始まったと考えられる。記憶は定かではないが、町民アンケートを実施して、運行ルートや運行時間帯を決定した経緯があると思う。ただし、B 委員が指摘した対象者を具体的に分けてニーズを把握したということはないと思われる。</p>
B 委員	<p>現状を曖昧に捉えて、要望だけで運行してしまうと、失敗するケースが考えられる。そのため、民生委員の方々の協力を得ながら、対象を細かく区分した調査を行った方が公共交通の在り方についても間違いなく進められると思う。</p>
A 委員 事務局	<p>太田新井地区の東伸団地が「陸の孤島」という言葉でテレビで紹介されていた。</p> <p>当時の住民へのアンケートは電話で行ったのか。</p> <p>平成 8 年頃のアンケートも郵送で行ったと思われる。</p>
A 委員 事務局	<p>資料 6 の 6 ページに「交通結節点」「起終点」とあるがどういう意味か。</p> <p>交通結節点は簡単に言うところでは駅を指している。西側の 2 路線は町内を通過しているだけで、交通結節点がないので、町内移動には使われていないという説明となっている。交通関係ではよく使われているようである。</p>

<p>A 委員</p> <p>佐々木会長</p>	<p>委員がわかるような言葉で資料を作成していただきたい。</p> <p><b>(4) 各委員からの意見等について</b></p> <p>会議事項(2)、(3)を受けての各委員の現在の意見を伺いたい。</p>
<p>B 委員</p>	<p>公共交通というのは、高齢者や障がい者など、どこに焦点を当てるのかが重要であると考えている。また、財政の問題からNPOや企業の社会貢献、タクシー業者からの協力なども視野に入れて、できるだけ税金を使わないで運行する方法を検討すべきだと考えている。また、報道や他市町村の動向に流され過ぎないことも大切だと考えている。近年、デマンド交通が国土交通省でも推奨されているが、国で行った調査によるとほぼ全ての市町村で赤字となっている。議論を重ねて、良い案を検討することが重要であると考えている。</p>
<p>A 委員</p>	<p>一つ目は、開催時間がなぜ午後5時となったのか。様々な交通手段の委員がいる中で会議終了時には暗く危険となるため、会議時間を繰り上げてもらいたい。</p> <p>二つ目は、白岡町には車いすで通れる道がない。先日、障がいがあり乳母車を引いている人に意見を聞いてみると、新しくできた道のような歩道を整備してほしいと言っていた。また、高齢者、障がい者だけでなく、通学路についても考える必要があると思う。交通量が多いが、色分けされているだけで歩道のない道が通学路となっており、大変危険であると感じている。</p> <p>三つ目は、バスについてだが、大山地区の荒井新田などの人が（駅周辺などの）街まで出てくるのは本当に大変だと感じた。先生のご意見も聞きながら、みなさんでよく検討したいと考えている。</p>
<p>事務局</p>	<p>会議時間については、後ほど検討する時間を設けている。</p> <p>道路のバリアフリーについては、一つ一つ道路改良を進める中で財政の問題が非常に大きく、なかなか予算をつけることができないが、白岡町の現状を見ると、必要な問題である</p>

C 委員	<p>ため、この検討会議では、広い視点を持って検討いただければと考えている。</p> <p>B 委員からもあったが、国土交通省から発表されている事例を見ても、住民サービス、また事業として、両立して成功している例がほとんどない。今後、色々と協議していく中で、検討していくと思うが、次回、近隣市町村の事例の紹介があるため、次回意見を述べたいと考えている。</p>
D 委員	<p>東北道の東側の陸の孤島と言われている地区の彦兵衛第一行政地区という場所に住んでおり、その行政区長をさせてもらっている。</p> <p>彦兵衛地区ではかなり高齢化が進んでおり、バスを走らせてほしいという要望は強い。以前、公民館や図書館を誘致するために、彦兵衛第一、第二、太田新井、岡泉で4行政区という組織が結成され、今も様々な活動を行っている。先ほど紹介のあった東伸団地で循環バスの要望があり、地区の住民が頑張っていたのだが、やはり色々な問題があっただけに実現していない。しかし昨年からは、4行政区でなんとかできないかという意見が挙がり、今進めている。まだみなさんに発表できる段階ではないが、利便性の悪い地域の対応をお願いしたいため、次回から意見を述べていきたいと思う。</p>
E 委員	<p>今後の細かい議題の中で問題を一つ一つ議論していければと考えている。</p>
F 委員	<p>先ほど話題に挙がっていた東伸団地に住んでいる。平成18年に循環バスが廃止されたため、それでは困るということで取り上げてもらった。</p> <p>アンケート調査の回収率が61.6パーセントということで、あとの40パーセントの人たちは交通に不便を感じていないから回答しなかったのかわからないが、白岡町は45の行政区があり、その中には、バスを必要としている地区も必要としない地区もあると思う。東部地区は、人口は減少</p>

G 委員	<p>傾向にあり、高齢化も進んでいる中で、やはりバスは必要であると感じている。しかし先ほどの話では、町が運行すると税金の無駄遣いだと言われる。この会議の議論によって、バスの運行、公共交通の方向性を見つけられればと考えている。</p> <p>白岡町の中でも中心街と言える場所に住んでいる。先ほどから利便性という話が出ており、中心街は店も病院もあって良いと思われるかもしれないが、高齢者の方は大勢いる上に、高齢の夫婦二人暮らしの方や一人暮らしの方も多。いくら中心街に住んでいても町内を移動する際には移動手段がなく、バスを利用したいと考えているのではないかと思う。また、交通指導員をしており、歩道の整備をぜひお願いしたい。</p>
H 委員	<p>交通弱者、高齢者、障がい者を中心に考えていただけるということで、みなさんの意見を耳に入れて、良い方向に進めていきたいと思う。</p>
I 委員	<p>前向きな検討が行われるようなので三つ意見を言いたい。</p> <p>一つ目は、公共交通システムができることで高齢者の自立生活に寄与することができる。高齢者の行動範囲が広がり、生活に色彩をつけることができる。</p> <p>二つ目は、高齢者の交通事故防止に役立つといえる。自転車の利用が多く、自転車の事故も多くなっている。そのため、自転車に頼らないで移動できることも必要である。県警のデータによると、自動車免許証の返納が去年の倍になっており、足の確保が必要と思われる。</p> <p>三つ目は、財政の問題がある。地域の福祉の一環として、色々と知恵を絞った継続できるシステムを考えていただければと思う。高齢者が自由に外出できる機会が多くなると思う。</p>
J 委員	<p>小久喜に住んでいるが、ここは非常に人口が増えた。一番困るのは学校の通学路で交通量が多いため、非常に危険だと感じる。対策として、歩道や歩道橋を設置して、通学路の整備をお願いしたい。最近、高齢化とよく聞くが、こういった</p>

佐々木会長	<p>会合に参加するにしても不便が多くなった。交通網の整備も色々なところで検討していただき、なるべく便利に利用できるような体制にしていただければと思う。</p> <p>今まで利用者の立場で意見をいただいたが、事業者の立場でご意見を伺いたいと思う。</p>
K委員	<p>こういった会議に出席するのは4市町村目で各地で色々な話を聞いたが、B委員のおっしゃるとおり、ほとんどが赤字でなかなかうまくいかない状況である。個人的な意見だが、案を練りすぎるとそれに固執してしまうため、変えられなくなってしまふ。アンケートを行って十分に分析しても、実際には利用されないケースがあるらしい。一生懸命検討するのは良いことだとは思いますが、おそらく運行開始後が一番大事ではないかと考えている。また、使用する車両についても、ある市町村ではタクシーを使用しているところもある。車両が小さいため、費用が安くなる。デマンド交通などにも色々なやり方があるため、様々なケースについて検討するべきだと思う。</p> <p>また、先ほど東伸団地の話があったが、その時には、町から補助が一切出ないということで話が進まなかった。なかなか費用対効果を考えると難しいので、今後どうなっていくのかと思うが、こちらとしては予算がつかないと見えない部分もあるため、色々盛り込んでも水の泡になる可能性がある。</p> <p>こちらの町民検討会議の結果を答申した後の流れはどうなるのか。地域公共交通会議などがまた行われるのかを伺いたい。</p>
事務局	<p>答申が提出された後は行政側で検討し、方向性を決めた上で、さらにその実現に向けて改めて法定の協議会が必要になることもあれば、行政が費用だけ出せば実現するケースもある。どちらにせよ答申後時間をいただき、場合によっては次の検討会につなげる形になると考えている。</p>

L 委員	<p>人口が5万人を超えて微増しているということだが、町内の高齢者等の交通弱者の方もいるが、全体的に見ると都内に移動される方もいる。町が運行すると町の全体をカバーしなければいけなくなる。受益者の方が負担をするのだが、全体が利益を受けないと動けないこともあると思うので、どうするのがよいかと考えている。</p>
佐々木会長	<p>今回は方向性を見出すということで、みなさんからご意見をいただいた。みなさんの意見を受けた上で、尾崎委員にまとめていただければと思う。</p>
M 委員	<p>それぞれの立場からのご意見をお聞きした。人間は移動したいと思ったときに、それぞれの能力と環境によって手段を選ぶのだが、高齢者や子供、障がい者の方は、何かしらの手助けを受けないと移動が難しい。その手助けを行政が担おうという検討が様々なところで行われている。それをどこまで行うのかという中で、結果として空気を運んでいる状況も生まれている。白岡町では循環バスを平成18年度に廃止されたということはある意味英断であったと思う。今回また、地域住民の方や交通関係の人が集まって検討するのはいい機会ではないかと思う。運行方法としては、みんなで協力してやりましょう、というところもあれば、行政が主体で行っているところもあり、その中間位のところもある。また車両についてもミニバスもあればタクシーを使っているところもある。それをどこまで、どういう形でやるのかをみなさんや専門家の知恵を借りながら考えていくべきだと思う。ただ、100パーセント満足するものを目指すのは難しいと思う。</p>
	<p><b>(5) 今後の検討スケジュールについて</b></p>
事務局	<p>事務局から資料7についての説明が行われた。</p>
佐々木会長	<p>ただ今の事務局の説明について、何か意見等はあるか。</p>
B 委員	<p>今後の進め方について、問題点やメリット、デメリットな</p>

	<p>どに重点を置いて、スケジュールを組んでいく方がより確かな公共交通ができると思う。</p> <p>また、総合的に考える必要があるように思う。委員に民生委員の方がいるが、町には交通指導員、体育指導員、愛育会など色々な組織がある。今の段階では、単独ではなかなか対応できないことがあるが、総合的に取り組めば、民生委員や交通指導員自体も公共交通をきっかけとして改革につながる。鳥瞰的に見て、様々な知恵を出し合っていくのが必要だと考えているため、事務局も配慮して資料なりを出していただきたいと思う。</p>
事務局	<p>(6) その他</p> <p>事務局から次回の検討会議、資料 1 1 についての説明が行われた。</p>
A 委員	<p>午後 5 時からの会議では、女性は夕飯の支度ができない。男性の仕事を優先するのではなくて、こういった会議でも、男女共同参画に配慮すべきではないか。事務局に取りまとめていただいて、できるだけ暗くならないうちに帰宅できる時間にしていただきたい。</p>
事務局	<p>A 委員の言うとおりに、男女共同参画の時代である。それでは、例えば午後 3 時から概ね 5 時ごろまで、または午後 4 時から 6 時までではどうか。</p>
H 委員	<p>10 月 12 日は午後 1 時半から概ね午後 4 時まで民生委員の会議があるのだが。</p>
A 委員	<p>個人的な意見を聞いても切りがない。全員出席が望ましいが、欠席の委員が出るのはやむを得ないので、事務局で取りまとめてほしい。</p>
事務局	<p>では午後 4 から 6 時までではどうか。</p>

<p>I 委員</p> <p>佐々木会長</p>	<p>午後 3 時から厳しいか。帰りが 6 時だと外が暗く、不安である。</p> <p>様子を見つつまた検討するので、次回は午後 4 時からでお願いしたい。</p> <p>これで本日の議題は全て終了した。</p> <p><b>4 閉会</b></p> <p>田辺総合政策部長から挨拶が行われた。</p>
<p>議事のでん末・概要を記載し、その相違なきを証するため、ここに署名する。</p> <p>平成 年 月 日</p>	